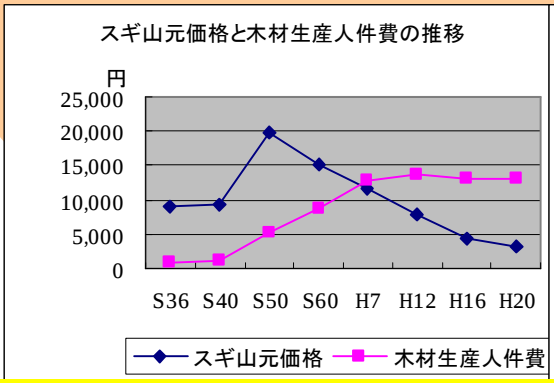
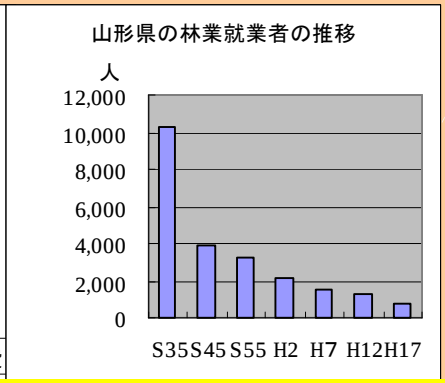
いったい、どうしてこうなっちゃったのかなあ？

もともと、日本の森林と人々の暮らしは深い関係があったの。その代表的なものとして木材を生産する林業があるんだけど、スギ林の場合は、安い外材がたくさん入ってきたり、木材を生産する費用が年々上がるのに木材価格は下がったりして、林業をやる人がどんどん減ってしまったわ。山村の過疎化が進み、森林に手をかける人がいなくなったことも大きな原因ね。

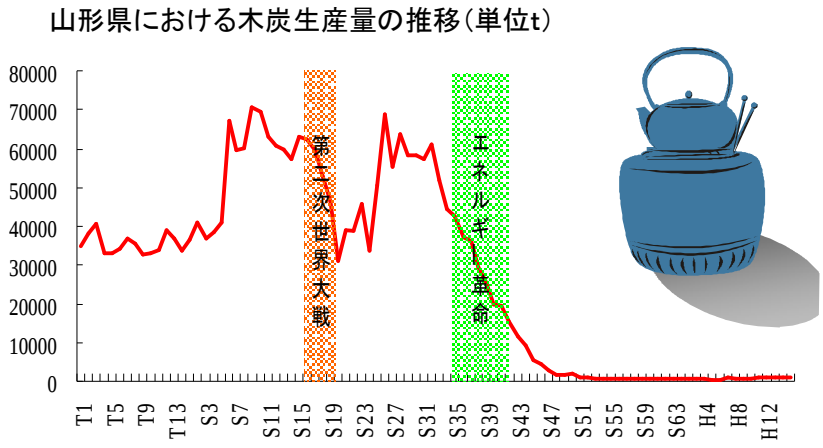




“木材の価格低迷と生産コスト高騰”による“林業者の減少”

もう一つ、里山の広葉樹林は、昔は、炭や薪（まき）などの生活のエネルギー源として利用されていたけど、石油が使われるようになるとあっという間に利用されなくなってしまったのよ。だから、その後はほとんどが放置された状態になっていて、暗く年老いた森林になってしまったのよ。

“生活様式の変化”に伴い
利用されなくなった“広葉樹林”



こうして考えてみると、林業が果たしてきた役割は、結果として森林を守ることにもなっていたと言えるんじゃないかしら。
つまり、森林が荒れた原因は、人が手入れをしなくなったり、森林とのかかわりが薄れたからなのよ。

何かだんだん心配になってきちゃったなあ。このままだと、どうなっちゃうの？

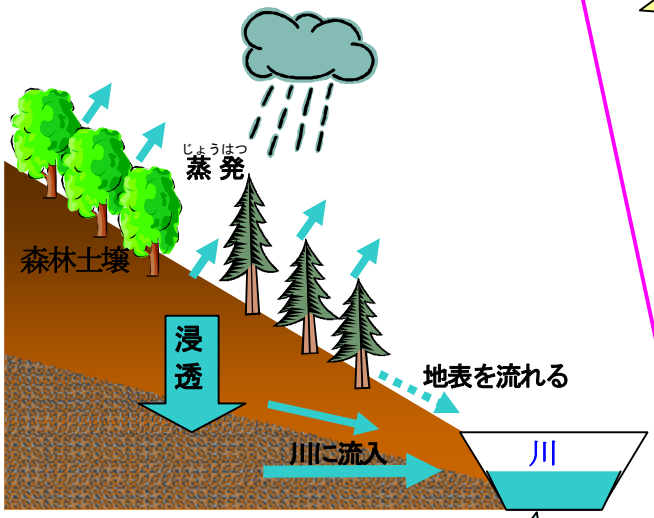
先生も将来がとても不安だわ。だって、森林は災害から私たちの生活を守ってくれたり、毎日の生活に欠かせない水を安定的に供給してくれたりするんですもの。

◆水源かん養機能が高い森林・・・
私たちの生活に欠かせない水を安定して供給

◆手入れが行き届かない森林が増えると・・・
土砂災害や水不足などによる県民生活への影響が増大

森林の水源かん養機能

森林があると・・・

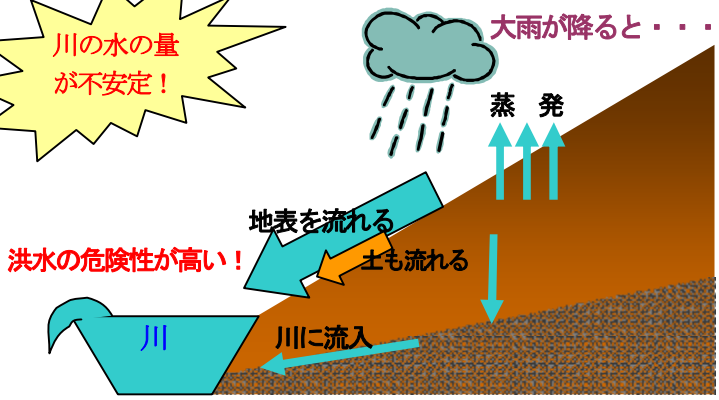


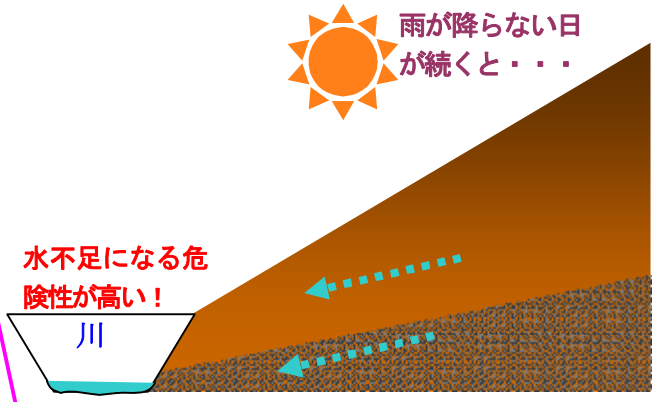
【森林土壌】
土壌に住む小さな生き物、菌類などの活動によりすき間が多いので雨水がしみこみやすい。
→ 時間をかけてゆっくりと川に流れこむ

水の量が安定

森林がないと・・・

川の水の量が不安定！





ほかにもこんなことがあるわ。
庄内海岸のクロマツ林がなくなったら、家も道路も砂に埋もれる恐れがあるし、暗くて年老いた森林ばかりになってしまったら、他の生き物もすみにくくなって絶滅する生物も増えるかもしれないわね。

砂に埋もれる家屋（庄内海岸地域）

それから、サル、クマ、カモシカなどの野生動物が里に出てきて、人や農作物に害を与えることが増えているんだけど、これも森林の変化が一因と言われているの。

増え続ける鳥獣被害

それに、夏に茶色の木が目立ったら眺めも良くないでしょう。

ナラ枯れ被害による景観の悪化

将来がとても心配になってきたわ。
先生、どうしたらいいの？何かいい方法は
ないの？
教えてください。

そうね。今までは「林業」というはたらきかけで森林が守れるという考え方があったんだけど、これだけ人の手入れが手薄になってしまったら、今までのやり方だけでは森林を守り育てることは限界に来ていると思うの。
これからは、私たち一人一人がもっともっと森林に親しみ、森林のことを理解し、森林づくりに参加して、「みんなでやまがたの森林を守り育てていく」ことが大切だと思うわ。

資源を循環利用しながら環境保全機能の高い森林が育まれている

森・川・海をつなぐ水循環が保全され、清らかな最上川が街や田畑を潤している

山形の木が街と森を循環し、森林の活力を高めている

洪水や土砂災害に強く、生物多様性に富んだ森林が育まれている

県民が身近に里山とかかわり合い、豊かで潤いのある生活環境を育んでいる

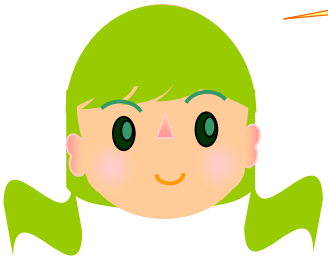
県民が身近に森と触れ合い、自然を大切にする心を育んでいる

なるほど。そうか。
人まかせにしないで、そうすればいいんだ！

新たな施策

既存の施策

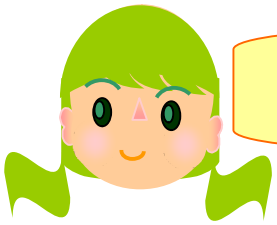
みんなの力で森林を守っていかないといけないんだね。



そうよ。庄内のクロマツ林を守る活動や水源の森の手入れなど、市民ボランティアの活動や企業の人たちの森づくり活動などが広がりを見せているわ。その他にも森づくりに参加する方法は、いろんな形があると思うわ。

みどりちゃんが言うように、これからはみんなで森林を支えていくことがとても大切なことなのよ。

県民の安全安心な生活基盤である森林は、かけがえのない県民の財産であり、子どもたちのために未来へ引継がなければならない大切な宝です。



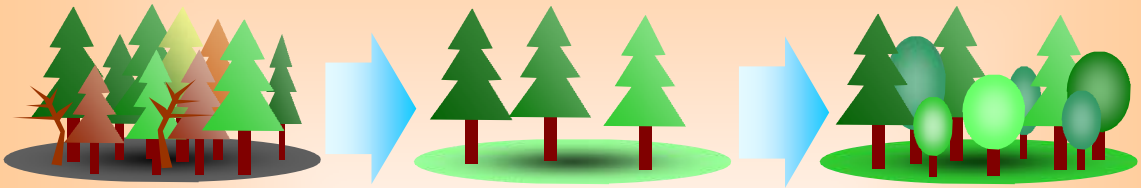
ところで先生、山形県では「やまがた緑環境税」がスタートしたって聞いたんだけれど、これってどういうものなの？

あら、みどりちゃん、よく知ってるわね！
そうなの。山形県では平成１９年４月から「やまがた緑環境税」がスタートしたのよ。やまがたの豊かな緑を、かけがえのない財産として未来へ引き継ぐために、県民みんなで守り支えていこう！ということで導入されたものなの。これから、その取組みについて紹介するわね。
まず、やまがた緑環境税を活用した取組みは、大きく３つに分類できるの。

◇やまがた緑環境税を活用した取組み◇

１．荒廃が進んでいる森林の整備

森林のいろんなはたらき（パネル③と④を見てね！）が十分発揮できるように整備します。



２．県民参加による森づくり

子どもからお年寄りまで、みんなに森林の大切さを理解してもらい、積極的な森づくりへの参加を促します。

３．ＰＲ活動や効果検証など

森づくりへの理解を深めるためのＰＲや、取組みの効果検証を行います。

パンフレット等の作成

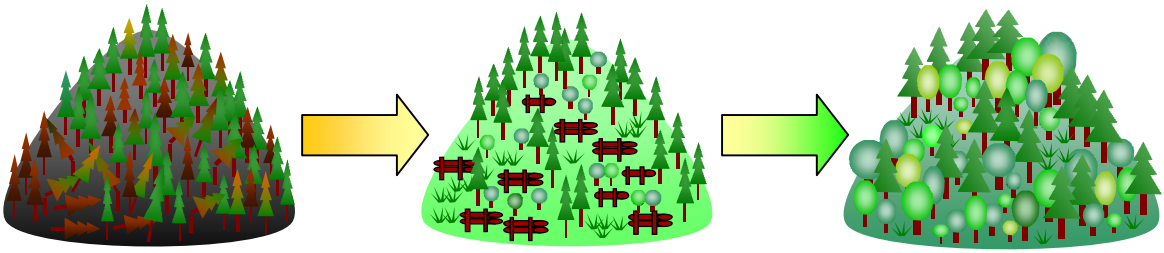
やまがた森の感謝祭 2011

やまがた緑県民会議

じゃ、順番に説明するわね。
まず何と言っても、急いで取り組まなければならないのが、**荒廃が進んでいる森林の整備**ね。森林所有者に代わって、県などが環境保全機能の高い森林に再生する新たな取り組みよ。

長い間、管理されずに荒廃が心配される森林(132,000ha)のうち、私たちの生活を守るために特に大切な森林 11,600ha を次の３タイプに区分して整備しています。

１．人工林としての維持が困難な森林

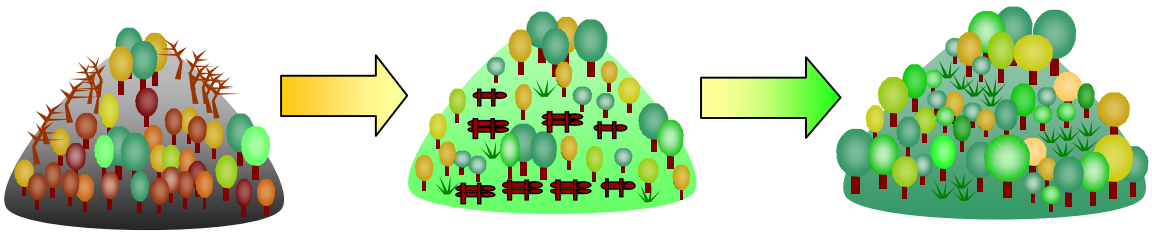


今後も整備が難しく、成長も期待できないなど、人工林として維持することが困難と考えられる人工林は、間伐により、多様な植物の生育空間をつくり、広葉樹の侵入を促すことで針葉樹と広葉樹が交じり合った森林に誘導します。

２．人工林として維持すべき森林

放置されている人工林でも、今後の手入れによって、私たちの暮らしを守る働きが期待できる森林は、これまで育ててきた木を活かしながら、間伐を行い、適正な密度で様々な樹高からなる森林へ誘導します。

３．病害虫などで荒廃した里山林



松くい虫、ナラ枯れ被害等により、活力が低下している里山林は、「成長不良木」や「立ち枯れた木」を伐って取り除いたり、広葉樹を新たに植えたりして再生します。